

【はじめに】

徳島県のブランド水産物であるスジアオノリは、主に淡水と海水が交わる汽水域である吉野川河口で養殖されている。同じ青ノリの仲間海面において養殖できるウスバアオノリという海藻がある。水産研究課は、全国NO.1のシェアを誇るスジアオノリに加えて、ウスバアオノリの養殖技術の開発に取り組み、普及することで名実ともに「とくしま青ノリ王国」の実現を目指している。

本研究は、阿南市椿泊地先において、漁業者と共同でウスバアオノリ養殖を試み、地域における新しい養殖産業として定着できるかを検討した。

【試験方法】

藻類養殖では種網(種苗)の確保が重要であり、まず人工採苗を試みた。2015年10月23日から11月2日にかけて椿泊地区の水産会社の敷地内に1トンパンライト水槽とエアレーション施設を設置し、水槽の中にノリ網(幅1.8m×長さ20m)10枚と細断されたウスバアオノリ葉体(湿重量約50g)を入れて人工採苗した。次に養殖ウスバアオノリにとって良好な生育環境を明らかにする目的で、静穏な椿泊湾の湾奥(以下「A試験地」と称する)と波浪の影響があり、潮通しのよい湾口近く(以下「B試験地」と称する)の2カ所を選んで養殖セットを設置した(図1)。さらに、養殖開始時期を調べるために、2015年10月23日に各2枚、11月2日および12日に各3枚の種網をA、B試験地に張り込んだ。その後、翌年の1月8日まで生長等の経過を観察した。

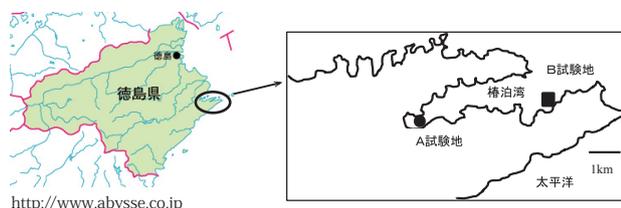


図1 ウスバアオノリ養殖試験海域

【試験結果】

A、B試験地ともに12月までは、葉長5mm程度の生長に止った。12月2日にA試験地において、11月2日までに張り込んだ網は、葉長11~23cmまでに生長していた(図2)。11月12日に張り込んだ網につ

いては、葉長5mm~5cmまでの生長で、他の試験区に比べて葉長が短かった。12月15日の調査では、いずれの試験区においても葉長12~16cmまでに生長していた。12月25日以降の調査では、著しい生長を確認することがなかった。

B試験地については、いずれの養殖網も長くても5mm程度の生長に止まった。A試験地とB試験地で生長に差ができた原因については、不明であり今後、検討が必要である。

以上の結果から①椿泊地先におけるウスバアオノリ養殖は湾奥であればある程度生長すること、②種網の張り込み時期は10月23日から可能なこと、③収穫期間は、12月からの半月間であることがわかった。



図2 A試験地で生長したウスバアオノリ
(2015年12月2日)

【おわりに】

阿南市椿泊湾奥でウスバアオノリ養殖が可能ながわかった。今後もウスバアオノリの養殖技術を改良し、新しい養殖産業に飛躍させたいと考えている。

養殖試験に共同で取り組んで頂いた椿泊漁協の皆様様に記して謝意を表します。

(水産研究課 環境増養殖担当 牧野 賢治)